

村井國夫  
三田和代  
保坂知寿  
神農直隆

うた  
たう  
は  
秘密

A Song at Twilight  
Noël Coward



2011年兵庫県立芸術文化センタープロデュース作品

東京、兵庫公演で絶賛された傑作 待望の再演!

村井國夫 読売演劇大賞優秀男優賞、三田和代 同優秀女優賞、高橋知伽江 小田島雄志翻訳戯曲賞を受賞  
上質なサスペンスを持ったエンターテインメントに感動(作家 赤川次郎)

知的で毒の効いたセリフが満載 2011年の演劇界の大きな収穫として記録されるだろう(演劇評論家 木村隆)

作:ノエル・カワード 翻訳:高橋知伽江 演出:マキノノゾミ

美術:奥村泰彦 照明:中川隆一 音響:高橋 巖 衣裳:前田文子 ヘアメイク:武井優子 演出助手:磯村 純 舞台監督:白石英輔

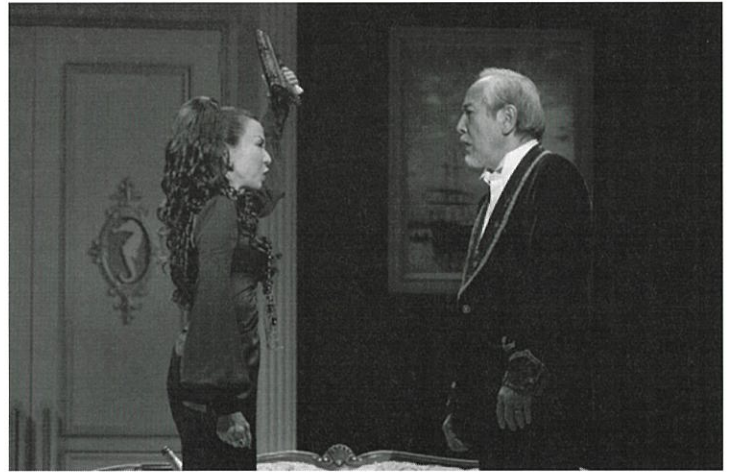
《茨木市文化振興財団第154回公演》

2013年5月22日[水]19:00開演 茨木クリエイトセンター・センターホール

◆お申込み・お問合せ:茨木市文化振興財団・文化事業係 ☎072-625-3055(9:00~17:00) インターネットチケット <http://www.ibabun.jp/>

◆発売日:2013年3月1日[金] \*財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。残席がある場合は翌日から窓口販売いたします。

主催:(公財)茨木市文化振興財団 製作:シーエイティブロデュース 企画制作協力:兵庫県立芸術文化センター 後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会



## STORY

舞台はスイスの高級ホテルのスイート・ルーム。

高名な英国人作家ヒューゴ・ラティマーはドイツ人の妻ヒルダと長期滞在している。彼はその夜、若い頃の恋人で女優のカルロッタと久しぶりに会うことになっている。

長年、音信不通だったカルロッタが会いたいと連絡してきた目的は何なのか。

ヒルダは外出し、ヒューゴはカルロッタと食事をしつつ、訪問の目的を探る。カルロッタは、自叙伝にヒューゴからのラブレターを載せる許可がほしいときりですが、ヒューゴは拒絶。いったんはあきらめたカルロッタは、かつてヒューゴがある人宛てに書いたラブレターも持っていること打ち明ける。

文学界の重鎮になろうとしているヒューゴにとって、それはなんとしても隠しておきたい秘密だった…。

## 2011年に絶賛され、多数の受賞に 恵まれた傑作 待望の再演

ノエル・カワードは演劇・映画のプロデューサー、劇作家、俳優で、恋愛映画の傑作「逢びき」を製作し、原作者でもありました。

『秘密はうたう』は、彼が最後に書いた戯曲三部作『Suite in Three Keys』の中から、『A Song at Twilight』を翻訳した作品です。

三部作は1966年にロンドンのクイーンズ劇場で初演され、カワード自身が主演、戯曲としてはこれが最後に書いた作品であり、最後に舞台に立った作品です。

本作では、カワードらしい粋で毒の効いた会話がふんだんに楽しめる上に、他の作品に類を見ない衝撃的要素もあります。初演は批評家から高く評価され、チケット完売の大ヒットとなりました。しかし、主演のカワードの健康状態が悪化、公演は予定の三ヶ月で終わり、ロングランはできませんでした。1974年にはブロードウェイでも上演されたものの、その後は、あまり再演されることのない幻の名作です。

本邦初演であった2011年の東京、兵庫公演では、膨大な台詞の応酬、微妙な心理描写を見事に表現した村井國夫、三田和代、保坂知寿、神農直隆の演技に観客は圧倒されました。

## 毒の効いた大人のための芝居

知的で毒の効いたセリフが満載だ。村井國夫、三田和代、保坂知寿の三者三様の大人の俳優による大人のための芝居。昨今の若い観客にこびるような傾向のある中で実にオーソドックス。2011年の演劇界の大きな収穫として記録されたであろう。

英国のノエル・カワードの最後の三部作の一つ。日本でカワードは古くから知られているが、上演されるのは初期の作品ばかり。有名な割になぜか上演回数は少ない。最近、一部で再注目されるようになったのは高橋知伽江沢による「出番を待ちながら」などによる。この「秘密はうたう」も高橋訳で一昨年の公演が本邦初演だった。

舞台はスイスの高級ホテルのスイートルーム。登場するのは英国の高名な作家(村井)とドイツ人妻(三田)と30年前の恋人の女優(保坂)、それにホテルのボーイ(神農直隆)の4人だけ。攻撃的毒舌家の作家がいかに自己保身的で利己的か、2人の女性によって鋭く暴かれ追いつめられていく。常に冷静でつましい妻が夫との愛の絶望について語る大詰めには三田のセリフ術がキラリと光る。知的な好奇心をくすぐり娯楽性もある作品だった。

演劇評論家 木村隆

2013年5月22日[水] 19:00開演 / 18:30開場 / 21:25終演 (1幕65分 / 休憩15分 / 2幕65分)

茨木市市民総合センター クリエイトセンター・センターホール

JR 茨木駅から東へ、阪急茨木市駅から西へ徒歩10分  
茨木市駅前四丁目6番16号 ☎072-624-1726

[全席指定] 一般4,000円 / 65歳以上、障害者及びその介助者3,500円 / 青少年(24歳以下)1,000円

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き (この取り扱いは財団のみです) \*就学前のお子様のお入りはご遠慮ください。

3月1日[金] 9:00 予約開始

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。残席がある場合は翌日から窓口販売いたします。

◆チケットのお申込み・お問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 9:00~17:00) / インターネットチケット <http://www.ibabun.jp/>

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売は発売翌日からです。

◎ユーアイホールチケットカウンター (9:00~17:00) ◎クリエイトセンターチケットカウンター (9:00~17:00)

\*予約チケットの郵送をご希望の場合は、(チケット料金+郵送料400円)を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。

払込確認後の発送となります。(払込口座)00970-7-190576 / 加入者名:茨木市文化振興財団

◆その他プレイガイド (初日店頭販売あり 10:00~)

ローソンチケット0570-000-407 (オペレーター対応)・Lコード予約0570-084-005 (Lコード51554)

\*ローソンチケットの取り扱いチケットはローソン各店舗で直接購入できます。

電子チケットびあ0570-02-9999 (Pコード426-374)

\*チケットびあの取り扱いチケットはサンクス、サークルK、セブンイレブン各店舗で直接購入できます。

◆主催:(公財)茨木市文化振興財団 ◆製作:シーエイティブロデュース

◆企画制作協力:兵庫県立芸術文化センター ◆後援:茨木商工会議所 / 茨木市観光協会

